ナゴキネ 疾患情報

肺がん

肺がんは、肺にできる悪性の腫瘍（がん）で、呼吸に関わる大切な臓器に影響を及ぼします。
大きく分けて「小細胞肺がん」と「非小細胞肺がん」という２つのタイプがあります。
初期の段階では自覚症状が出にくいこともありますが、せきが続く、血の混じったたんが出る、息切れがするといった症状が現れることがあります。

組織分類			頻度	特徴
非小細胞肺がん	扁平上皮がん		約30％	禁煙との因果関係が特に強い。
	非扁平上皮がん	腺がん	約50％	肺がんで最も頻度が高く、近年増加傾向である。多くの分子標的薬が開発されている。
		大細胞がん	約5％	非小細胞肺がんのうち、腺がんや扁平上皮がんの形状を示さないもの。
小細胞肺がん	小細胞がん		約15％	進行が速く転移を起こしやすい反面、抗がん剤や放射線が効きやすいという特徴がある。

検査方法

レントゲンやCT画像検査だけでなく、がんの種類や治療方針を決定するための組織検査（生検）を行います。
気管支鏡検査では、がん組織を直接採取し、病理診断や遺伝子検査につなげています。 超音波内視鏡（EBUS）を用いた検査法は、より安全かつ正確に検体を採取することが可能です。

EBUS-TBNA（超音波気管支鏡ガイド下針生検）

主に縦隔や肺門部のリンパ節・腫瘍に対して行う針生検で、がんの病期診断などに有用です。

EBUS-GS（ガイドシース法併用気管支腔内超音波ガイド下生検）

肺の末梢にある小さな病変に対して行い、細いチューブで正確な位置を確認しながら、組織を取って調べる検査です。

名古屋記念病院の治療

化学療法

抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などを用いた化学療法を行っています。がんの種類や遺伝子変異に応じて治療を選択し、副作用にも十分配慮しながら、安全で効果的な治療を心がけています。

	主なはたらき	特徴	副作用
抗がん剤	がん細胞の増殖をおさえる	標準的治療 幅広いがんに使える	脱毛、吐き気、貧血、だるさ、白血球減少、血小板減少
分子標的薬	がん細胞だけが持つ特定の「異常な遺伝子」を狙う	特定の遺伝子変異があるがんに有効	皮膚のトラブル、下痢、血圧上昇、間質性肺炎
免疫チェックポイント阻害薬	免疫の力を取り戻して、がんを攻撃させる	一部の肺がんや皮膚がん、他のがんでも使われ始めている	まれに自己免疫のような副作用（ホルモン異常、下痢、肝機能異常、皮フ障害など）

胸腔鏡手術

肺がんに対する低侵襲手術の一つで、数か所の小切開から内視鏡カメラと専用器具を挿入し、モニターを見ながら肺の腫瘍やリンパ節を切除します。
開胸手術と比較して術後の疼痛や肺機能低下が少なく、入院期間の短縮や早期社会復帰が期待されます。
早期肺がんを中心に適応されますが、病変の位置や進行度によっては開胸手術への移行が必要となる場合もあります。

#HOSPY ナゴキネ 名古屋記念病院
所在地： 〒468-8520　名古屋市天白区平針4-305
電話番号： 052-804-1111（代表）
サイト： https://www.hospy.or.jp/kinen/
ホームページ
NAGOYA_KINEN1985
Instagram
YouTube